

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名（県立名張高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自律」「協調」「創造」を校訓とし、総合学科の特色である人間性と専門性を育成し、地域に信頼され、社会に貢献できる人材を輩出する学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	<p>○ 4つの力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「気」 挨拶がしっかりできる。端正な服装ができる。時間をきっちり守れる。 ・ 「心」 自分の力で取捨選択し、他者と協調協力して物事をすすめる。 ・ 「体」 部活動や地域との活動に励み心身を鍛える。 ・ 「技」 特技を伸ばす。資格を取得する。進路を実現する。
	ありたい 教職員像	<p>○ 生徒とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼 生徒との信頼関係が構築できる。 ・ 授業 主体的・対話的で深い学びを意識した授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・ 相談 学習の躓きや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。 <p>○ 保護者・地域社会とともに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 信頼 保護者との信頼関係が構築できる。 ・ 連絡 日々様子や変化を的確に連絡できる。 ・ 情報 希望する進路が実現できるよう早め早めの情報提供ができる。 <p>○ ワークライフバランスを意識した働き方ができる職場環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の精選や業務の効率化などにより「働きやすい職場」を作ると同時に、研究発表等に積極的に参加することで「働きがいある職場」をつくる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒></p> <p>生徒アンケートの結果、生徒の約40%が就職を希望し、約30%が専門学校、約30%が四大・短大への進学を望んでいる。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p><保護者></p> <p>保護者アンケートから学校目標や教育目標への理解度は高い。多様な進路に対応し進路実現を可能にしてくれる学校になってほしい。家庭学習の充実を求める声がある。</p> <p><地域></p> <p>地域を支え、地域をリードする力を持った人材の輩出</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><家庭></p> <p>生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風。</p> <p><地域></p> <p>信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化。</p> <p><就職先></p> <p>卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出。</p> <p><進学先></p> <p>学ぶ力と志を備えた人材の輩出。</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><家庭></p> <p>基本的生活習慣の確立。本校教育方針へのさらなる理解と協力。</p> <p><地域></p> <p>学校と地域が共働した取組みへの推進。</p> <p><就職先></p> <p>インターシップ、進路講話への協力。</p> <p><進学先></p> <p>高大連携授業、進路講話への協力。</p>

<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活指導のあり方 生活改善に向けた生活指導や学年通信を利用した保護者との連携を継続した結果、最近数年で問題行動が半減した。しかし、規範意識の低い生徒が一定数いる現状がある。今後とも継続して生活指導に力を入れていく必要がある。 ○ 授業改善 アンケート結果から、授業についていけない生徒も一定数いる。勉強の意味がわかっていない生徒も多いのではないかと。また、支援が必要な生徒も増えている。テスト等について、その場限りの学習になっており、成長に繋がっていないのではないかと。今から対応を十分に行い、社会に出てから困ることのないようにする必要がある。 ○ 報道機関等への情報提供 報道機関等を通して本校の教育活動を地域に知ってもらうことで、学校に対する関心が高くなり、生徒の自信につながる。地域とともに成長する学校を目指して欲しい。 ○ 目標設定 合理的な生徒が増えており、目標を達成できればそれで満足してしまう。目標設定する場合に、一つの目標だけを設定すると、達成した場合に燃え尽きてしまう可能性がある。段階を踏んで、低次の目標から順に高次の目標に向かって努力を続けるように設定する必要がある。特に就職や推薦で大学や専門学校等への進学を目標にすると、内定後の指導が困難になる。 ○ 生徒が学びたいと思う学校へ 伝統のある学校だから、地域に愛され、生徒や保護者から入学させたいと思う学校となるよう努力を続けて欲しい。
	<p>(4) 現状と課題</p>
<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 職員充実度の向上 働き方改革をすすめるため、「定時退校日」を設け、「部活動運営方針」に従って運営を行っているが、時間外労働時間の軽減につながりにくい状況がある。更に、効果的な取組みの検討や職員への周知徹底をすすめる必要がある。 ○ 情報提供による信頼の構築 学校の情報については、ホームページやポスター、チラシ等を通して情報提供を行っているが、外部の方々にとどの程度伝わっているかは不明である。今後は伝えたい情報を確実に伝えることを検討していく必要がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業 生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は主体的・対話的で深い学びにむけた授業改善を進め「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。 ○ 指導 豊かな心を育成するため、教職員は人権教育を柱に安心して学べる学習環境を整える。規範意識をさらに高め、生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。 ○ 総合学科としてのアイデンティティの確認 今後の生徒数減に向けて、本校の総合学科としてのアイデンティティを確認し、教育課程を見直す。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働きやすさ 無駄な仕事はやめる。①名張高校にとって良いことで現在実行していることは「継続する」。②名張高校にとって良いことなのにできていないことは「すぐ始める」。③すぐにやめた方がいいことは「すぐやめる」。業務の効率化と円滑な引き継ぎによって「働きやすい」名張高校を目指す。 ○ 働きがい 会議を精選し、会議時間を縮減する。①早め早めの連絡調整を徹底することで会議時間を短縮する。②各種委員会での議論を深め、委員会から改善案を提案し、改善策を実行に移す。③空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。各部各学年が約束し責任に果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	<p>(1) 教育課程の改善</p> <p>【活動指標】新学習指導要領への対応を検討するとともに、本校の総合学科としてのアイデンティティを確認し、カリキュラムマネジメントを行う。</p> <p>(2) 授業改善</p> <p>【活動指標】生徒による授業評価を2回(7月、12月)実施</p> <p>【成果指標】「生徒同士等で話し合う時間を重視した授業が進められている。」と回答した生徒の割合70%(昨年度68.1%)</p> <p>「この授業はその教科の実力アップに効果がある。」と回答した生徒の割合90%(昨年度86.8%)</p>	<p>○生徒同士等で話し合う時間重視(67.0%)</p> <p>○実力アップに効果(91.1%)</p>	◎
豊かな心の育成	<p>(3) 基本的な生活習慣の定着と確立</p> <p>【活動指標】定期的に、学年通信等での提示、SHR・LHRでの指導、学年集会での指導等</p> <p>【成果指標】生徒満足度調査において、「基本的な学校生活習慣の定着に向けて、適切な指導が行われていますか。」で行われていると回答した生徒の割合95%(新規項目)</p>	<p>○基本的な学校生活習慣の定着指導(91.6%)</p>	※

	<p>(4) 安全・安心教育</p> <p>【活動指標】生徒支援部（生徒指導係・保健係）、人権教育、学年による講演・指導等</p> <p>【活動指標】生徒満足度調査において、「健康と安全について、適切な指導が行われていますか。」で行われていると回答した生徒の割合 95%（昨年度 92.5%）</p> <p>「命や人権を大切にしている指導が適切に行われていますか。」で行われていると回答した生徒の割合 95%（昨年度 94.2%）</p> <p>(5) 意欲の育成</p> <p>【活動指標】進路実現に向けた進路指導部・学年による指導等</p> <p>【活動指標】生徒満足度調査において、「生徒の進路実現に向けて効果的な指導を行っていますか。」で行われていると回答した生徒の割合 95%（昨年度 91.5%）</p>	<p>○健康と安全教育 (93.5%)</p> <p>○人権教育 (96.7%)</p> <p>○進路指導 (95.8%)</p>	<p>※</p> <p>※</p>
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動において、生徒は落ち着いてきているが、主体的に物事に取り組む意欲が低い生徒も見受けられる。 学習はするが、生徒や教師と話し合う機会が少なく、学んだことが定着しない生徒も多い。授業に対話を取り入れ、主体的に取り組む態度を身につけさせる必要がある。 学んだことが生活と結びつかず、学習に取り組む意欲の低い生徒が一定数いる。 			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
職員充実度の向上	<p>(1) 働きやすい職場環境の構築</p> <p>【活動指標】(平成30年度比較とし、()内の値は平成30年度の実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定時退校日を月2日実施し、設定した日の定時に退校できる職員の割合90%を目指す。(月1回実施、84%) ● 部活動休養日を週1日設定し、予定通り休養日を設定した部活動の割合100%を目指す。(95%) ● 放課後に開催され60分以内の終了する会議の割合85%を目指す(65%) ● <p>【成果指標】時間外労働時間について(1月31日現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 月80h以上の時間外労働者0人を目指す。(のべ78人) ● 時間外労働を月2時間削減(平均36.9時間) ● 休暇取得を年0.5日増加(16.3日) 	<p>○定時退校 (77.6%)</p> <p>○部活動休養日設定 (100%)</p> <p>○60分以内の会議 (71.4%)</p> <p>○80h以上</p> <p>○時間外労働</p> <p>○休暇取得</p>	◎

情報提供による信頼の構築	(2) ホームページ・学校情報チラシ等による情報提供 【活動指標】 ホームページの更新 月1回以上 中学3年生及びその保護者を対象とした学校情報誌の隔月発行	○ホームページ 行事等毎に更新 ○ニュースレター 4回発行	※
教職員の資質向上	(3) コンプライアンス研修 【活動指標】 校内研修年3回以上 (4) 教員対象人権研修 【活動指標】 校内研修年3回以上	○コンプライアンス研修 打合せ・会議等で管理職から注意喚起。 ○人権研修 ・全体研修(2) ・新転任者フィールドワーク	◎ ◎
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 過重労働の多い教員数は減少傾向にあるが、学校全体として、業務の見直しを更に図り、働きやすい職場環境をつくっていく必要がある。 ・ 今年度は情報誌の作成を行い、学校からの情報発信を進めてきた。それにより、学校の状況を中学生やその保護者に丁寧に伝えることができた。今後は年間を通じて計画的に情報発信を進めていく必要がある。 			

5 学校関係者評価

明らかにになった改善課題と次への取組方向	<p><人間関係について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶をよくしてくれる。挨拶は地域の宝であり、地域教育力のバロメーターである。 ・ 人と接する経験が少なくなってきたおり、親しい人とだけの関係しか作れない者も多くなっている。 <p><部活動について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動を行う中で生活指導も担ってきた。働き方改革を進めていく中で、今までの活動は難しくなりつつある。 <p><地域連携について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域教育との連携が必要である。そのため、情報発信を適切にしてほしい。 ・ ホームページは更新をしても、情報を取りに来てもらうことは難しい。地域の学校として、まずは現状を認知されることが大切である。 ・ 地域連携の取組を進めることで、地域外への流出を止めることができる。 ・ 地域ボランティア、地域学の学習などがすすんできている。 ・ 地域と学校を結ぶコーディネーターが必要である。 ・ 勉強と生活が乖離している生徒も多い。 <p><働き方改革について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革の意義は理解できるが、業務は減っておらず、実行は難しい。 ・ 固定観念が強いため、動き出せば思っている以上にできることもある。
----------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブラーニングの視点からの主体的・対話的で深い学びについて、具体的な目標を定め、確実な取り組みを進める。 ・ 授業における地域との連携を進め、学校及び地域の活性化を進める。
--------------	--

学校運営につ
いての改善策

- ・ 働き方改革について、更に具体的な目標を定め、確実な取り組みを進める。
- ・ 学校情報誌の発行を定期的に計画し、更に細やかな情報発信を行い、地域からの信頼を高める。